

## 書評

## ゴミ・資源・未来

— 急げ、リサイクル社会へ —

著者：本多淳裕

発行：(財)省エネルギーセンター

定価：2,060円

評者：若松貴英（名城大学都市情報学部教授）

人類はこれ迄、材料資源やエネルギー資源を消費して豊かな社会を築きあげて来たが、現在、生産や消費の過程で生じた大量のゴミや汚泥などの廃棄物を如何に処理するかの問題に直面し、これと関連する環境問題や今後の資源枯渇問題と共に、その解決に迫られている。わが国では政府もやっと本腰となり、「リサイクル法」(平成3年)、「省エネ・リサイクル支援法」(平成5年)、「容器包装リサイクル法」(平成7年)などの法律を制定し、資源循環型社会への取組みを始めたところである。

本書は、著者が資源リサイクル問題の解決に長年関

与されて研究活動や委員会活動を通して得た問題点、とくに資源リサイクル社会の推進をはばむ要因を指摘し、それに対して著者自身の建設的な意見が述べられている。内容は8章から成っており、その題目を示すと次のようである。

- 1章 日本は物とごみでパンクする
- 2章 間違っていた廃棄物行政
- 3章 持続可能な発展のために
- 4章 生産企業の体質を変える
- 5章 未来のために消費財を変える
- 6章 未来のために耐久消費財を変える
- 7章 リサイクル技術を確立する
- 8章 行政システムを改革せよ

一貫している事は、消費者、行政関係者、研究・教育者などすべての社会構成員は、これ迄の一方的な消費活動を反省し、根本的に廃棄物を出さないローズドな物流社会を構築する考え方に徹するように主張した内容であり、各章とも貴重な意見が提示されている。資源リサイクルを考える場合には良いメッセージとなるであろう。

## 書評

通商産業省編

## エネルギー '96

発行：電力新報社

定価：1,800円

評者：吉田邦夫（東京大学工学系大学院教授）

政府の刊行するエネルギー統計の最新版である。日本および世界の産業、民生、運輸部門などの近年のエネルギー情勢が図表で示されている。またエネルギーを取りまく世界の情勢、地球環境問題などの諸問題、それに対するエネルギー政策が要領良くまとめられて

おり、エネルギー関係者には必携の書である。

欲を言えば、ごみ焼却所やコージェネレーション施設の数や発電量、原子力発電所立地図など追加充実させて欲しいデータはある。また紙質を変えて是非軽量化を図って欲しい。